

これからも町民の健康増進へ

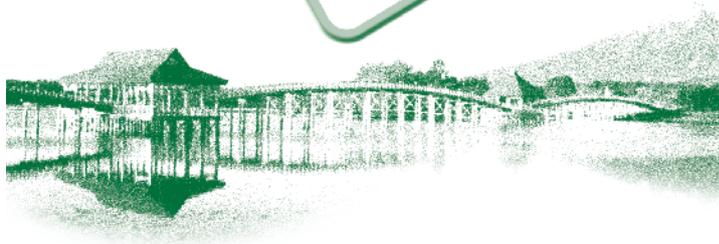
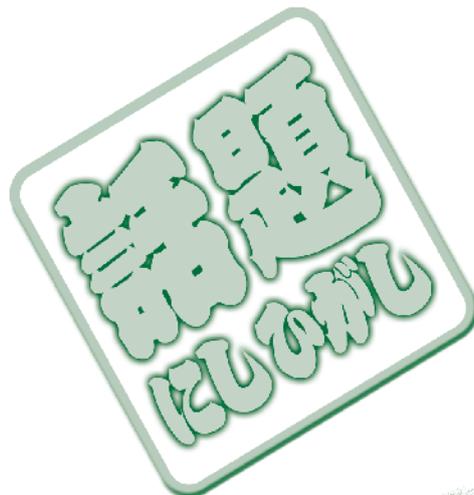
12月9日（水）、町食生活改善推進協議会の木村夢知子会長が「緑綬褒章」の受章報告のため相川町長のもとを訪ねました。

木村さんは長年、食生活改善推進員として町民の健康づくりを支援していきました。町イベント等でのバランスのよい食事の紹介・提供や広報誌でのメニューの紹介、子どもたちへの食育活動など、長年の功績が評価されこのたび緑綬褒章を受章しました。

相川町長は「鶴田町が県内でも平均寿命が高いのは木村さんたち食生活改善推進協議会の尽力があると思う」と話し、木村会長は「これからも行政と協力して、町民の健康づくりに貢献していきたい」と意気込みを語ってくれました。



△相川町長（右）に受章の報告を行った木村夢知子さん（左）



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

鶴中女子バスケット部全国大会出場

12月17日（木）、鶴田中学校女子バスケットボール部は全国大会に出場することを相川町長に報告しました。

同中は11月に行われた県大会で他を寄せ付けない強さで優勝し、「ジュニアウインターカップ第1回全国U15バスケットボール選手権」への出場権を獲得しました。

相川町長は選手たちへ「厳しい戦いになるかもしれないが、練習の成果を出し切ってください」と激励。齋藤和主将は「ここまでこれたのも多くの方々の支えがあってのことなので、最後まで諦めないで頑張ってください」と大会への意気込みを語りました。



△選手たちは全国大会での健闘を誓いました

コロナ禍でも地域のために

12月5日（土）、鶴田町の社会福祉発展に功績のあった個人および団体を表彰する「令和2年度鶴田町社会福祉大会」が鶴遊館で行われました。

大会では町の社会福祉事業に貢献した16団体と46人に対し、顕彰状や感謝状などが贈られました。町社会福祉協議会の中野撃司会長は「新たな生活様式の中でつながりを強化し、次世代の地域のあるべき姿の構築へ決意を新たに、鶴田町の社会福祉の一層の充実を目指していきます」と話していました。

式典後には、弘前大学大学院の中路重之特任教授が「鶴田は日本一健康な町になれるか」と題して講演。青森県が短命県な理由を解説し、改善の施策を講義しました。



△中野会長から顕彰状を受け取る参加者



△持ち寄ったリンゴを箱に詰め替える児童たち

家庭から自慢のリンゴを提供

児童が学校給食用のリンゴを家庭から持ち寄る「リンゴ^{ひとかご}運動」が12月18日（金）、鶴田小学校で行われました。児童たちは雪がちらつく朝の寒い中、頬を赤くしながらリンゴをいっぱい詰めたかごを手に登校。この日は20キロ箱で9箱分のリンゴが集まりました。

当町では、食育や地産地消を推進するため、毎年、地域の生産者からリンゴを提供してもらい、11月から3月まで小中学校の学校給食で地元のリンゴが提供されています。

中野教育長は「毎年のご家庭からのご協力に感謝いたします。子どもたちにはおいしいりんごを食べて健やかに成長してほしい」と話していました。

新生「保安橋」が開通

野木地区と菖蒲川地区を結ぶ県道200号米山菖蒲川線の保安橋の架け替え工事が完了し、12月19日（土）、開通しました。

保安橋の架け替えは、旧保安橋が建設から60年近く経過し老朽化が進んでいたため、岩木川改修事業と併せて国と県が2015年から進めてきた工事。総事業費は約74億円で幅員は旧保安橋より1.3m広がっています。

利用開始に先立って、町国際交流会館で行われた開通式には、関係自治体の首長や工事関係者ら約40人が出席しました。相川町長は「町民にとっての生活道路であり、鶴の舞橋へのアクセス道路として重要な路線です。町の活性化に効果があると確信しています」とあいさつしました。また、テープカットとくす玉を割って保安橋の完成を祝いました。



△関係者たちによるテープカットとくす玉割り